

ジュニアドクター育成塾における WOWW アプローチ導入 による受講児童生徒の影響

- M-GTA を用いて -

(教育学部) 相模 健人
(愛媛県教育委員会スクールカウンセラー) 青柳 潤子

Impact of the introduction of the WOWW approach in a junior doctor
training academy on the students attending the academy.
Using a Modified Grounded Theory Approach

Takehito SAGAMI and Junko AOYAGI

(2023年9月1日受付、2023年11月28日受理)

要約：本研究ではジュニアドクター育成塾において、解決志向ブリーフセラピーの教育的介入の一つであるWOWWアプローチを導入し、受講した児童生徒の感想を調査し、その効果と課題を明らかにすることを目的とした。有効回答数22名を分析対象者とし、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。結果より、コーチが児童生徒のリソースを指摘し、それを元に児童生徒が受講態度を改善し、内発的動機づけを高めていることがWOWWアプローチの効果と考えられ、更に拡充した実践が求められた。

キーワード：ジュニアドクター育成塾、WOWWアプローチ、M-GTA

Keywords：Junior Doctor Training Academy, WOWW Approach, Modified Grounded Theory Approach

ョンを牽引する傑出した人材の育成に向けて、高い意欲や突出した能力のある小中学生を発掘し、さらに能力を伸長する体系的育成プランの開発・実施を行うことを支援」(科学技術振興機構, 2015)⁽⁶⁾することを目的としていて、愛媛大学で開かれてきた。

ジュニアドクター育成塾ではゼネラリスト育成の目的があり、その観点から受講生の興味、関心をあらゆる講座に持ってもらうようにする必要がある。その面からコーチングの必要性が指摘されてきた。ここでコーチングとは「相手から答えを引き出すことを目的としたコミュニケーション手法」(浜田, 庄司, 2013)⁽⁵⁾であり、これまでビジネスや教育の分野において用いられてきた。

そこでジュニアドクター育成塾においてカウンセリング技法の一つである解決志向ブリーフセラピー(Solution-Focused Brief Therapy: DE Jong, Berg, 2016)⁽⁴⁾の教育的介入の一つであるWOWWアプローチ(Working on What Works: うまくいっていることに取り組むの略)を導入した。WOWWアプローチとは「クラスの教育の質に影響を与えるよう設計された革新的なプログラム」(Berg, Shilts, 2004)⁽³⁾であり、従来の教員と生徒の他にコーチが授業に参加する。コーチは児童生徒の授業態度を観察しコンプリメント(ほめる・ねぎらう)を中心としたフィードバックを行う。

WOWWアプローチの実践的研究としてはWallace(2017)⁽¹²⁾が生徒と教師の成果に対するWOWWの影響を評価したところ、WOWWを受けた生徒は、不安、無関係感、不注意、多動性、衝動性、行動修正の必要性などの指標で、レベルが低かった。また、浅原(2016)⁽²⁾はWOWWアプローチを学級経営に活かすことでアセス(ASSESS: Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres 6領域 学校適応感尺度)の数値が上がり、肯定的な感想が得られたことを報告している。

本研究ではこのWOWWアプローチを受けたジュニアドクター育成塾の児童生徒の感想を自由記述により調査した。質的研究法の一つである修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(Modified Grounded Theory Approach, 木下, 2003, 以下M-GTA)⁽⁸⁾を用いて、分析し、ジュニアドクター育成塾におけるWOWWアプローチの効果と課題を明らかにすることを目的とした。

II. ジュニアドクター育成塾について

ジュニアドクター育成塾について愛媛大学では年度ごとに小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒を第1段階受講生として約40名募集し、原則、隔週の土曜日に3時間の講座を開く形で行っている。

対象とした2022年度は小学校5年生から中学3年生の46名の児童生徒が参加した。X年7月からX+1年3月まで20回(開校式、閉校式を除く)行われた。愛媛大学ジュニアドクター育成塾では育成したい人材像として以下を掲げている(向ほか, 2021)⁽⁹⁾。

- ・既存の科学についてブレイクスルーとなる疑問を持つ: 「なぜを問う力」
- ・疑問の解決のために様々な挑戦を行う: 「なぜを問う力」
- ・得られた結果について多角的にねばり強く考える: 「考える力」
- ・自らの考えを突き詰めシンプルな問いに帰結する: 「考える力」
- ・自らの知見を他者にわかりやすく表現する: 「表現する力」
- ・得意・不得意とは関係なく、他者の知見を理解し、吸収する: 「表現する力」
- ・課題に対して他者と協働して解決する: 「協働する力」
- ・科学という共通言語を通して、多くの人と協働する: 「協働する力」
- ・未来に繋がる科学者ネットワークを形成する: 「協働する力」
- ・よりよい社会と人生を構築する基礎となる人間性: 「学びに向かう力」
- ・SDGsや地域に適した社会の構築ができる人間性: 「学びに向かう力」

III. WOWWアプローチの実施

WOWWアプローチ実施については全20回の講座の内、6回において3名の大学院生によるコーチが実施した。6回の選択理由はコーチの大学院生の都合による。対象年度は第1段階の受講であった。コーチたちが講座を観察し、全体でのフィードバックを行い、後日、コーチがロイロノートを通じて個別に参加児童生徒にコンプリメントを行ったコンプリメントカードを配布した。

IV. 方法

1. 調査対象者

2023年3月に行われた閉校式参加者に呼びかけ、有効回答数22名を分析対象者とした。

2. 調査内容

研究目的に沿った調査項目を独自に作成した。Google Formsを用いて、1問を除き自由記述で回答してもらった。具体的な調査内容は以下の通りである。

- ①最初のWOWWアプローチ実施回にジュニアドクター育成塾の終わった時にフィードバック(ジュニアドクターを見て良かったことのお話)を聞いたときの感想を教えてください。
- ②フィードバックは6回分のジュニアドクター育成塾のときにお話させていただきました。フィードバックを聞いて、次のジュニアドクターに参加するときに気をつけた事があれば教えてください。
- ③気をつけたことについてフィードバックで取り上げてもらったことはありますか？あればそのときの感想を教えてください。
- ④コンプリメントカードは8月6日、8月27日、10月1日、11月19日、1月7日、2月4日のジュニアドクター育成塾の後でロイロノートにお送りしました。読んだことはありますか？ これのみ i いつも読んでいる ii 時々読んでいる iii 読んだことはない の選択肢としている。
- ⑤④で i いつも読んでいる ii 時々読んでいる を選んだ方はコンプリメントカードを読んだ感想を教えてください。
- ⑥そのコンプリメントカードを読んで、次のジュニアドクター育成塾に参加するときに気をつけた事があれば教えてください。
- ⑦気をつけたことについてコンプリメントカードで取り上げてもらったことはありますか？あればそのときの感想を教えてください。
- ⑧コンプリメントカードをもらったときとそうでないときのジュニアドクター育成塾での違いはありましたか？あれば教えてください。
- ⑨フィードバックやコンプリメントカードについてこ

うしてほしいという希望があれば教えてください。

カテゴリー名	コーチからの観察
定義	コーチが自分たちを観察してくれていると児童生徒が感じていること。
概念名	概念1『よく観察している』
	概念11『一人一人見ている』
	概念22『自分のことを見てくれている』
理論的メモ	概念2: 児童生徒はコーチが自分たちをよく見ていることを実感している。『一人一人見ている』と類似概念。
	概念11: WOWWアプローチを行うことにより、児童生徒が自分がきちんと見られていることを意識していると考えられる。『よく観察している』『自分のことを見てくれている』と類似概念。
	概念22: WOWWアプローチが参加児童生徒の動機づけになっていると考えられる。『よく観察している』『一人一人見ている』と類似概念。

⑩フィードバックやコンプリメントカードの感想を教えてください。LINEを授業で使用することを知ったときの感想を教えてください。

④に関しては自由記述ではないのでM-GTAの分析対象から外している。

3. 倫理的配慮

WOWWアプローチ実施及び調査にあたっては、愛媛大学教育学部研究倫理委員会の審査を受けて行った。調査対象者に研究目的を説明し、了解が得られたものを調査対象としている。

4. 結果の分析

概念名	よく観察している
定義	WOWWアプローチのコーチが自分たちをよく見ていること。
ヴァリエーション(具体例)	よく観察してくださっていると思った。
	自分の事を講師の方がよく見ていてくれたのが嬉しかったです。
	いろいろな人のことを細かくよく見ていてすごいと思った。
	細かいところまで見ているなと思いました。
	私たちの事をよく見てくれているのだなど、うれしくなりました。
	自分のことを見てくれていることを感じました。
	(気をつけたことがフィードバックで取り上げられたことは)あります。よく見てるなと思いました。
	一人ずつ気付いたことを的確に、丁寧に書いていて、好印象でした。
	自分でも考えずにしていたことが取り上げられたことがあってびっくりした。
	コーチングメンターさんが僕達の色んなところを見てくれている事が分かった。褒め上手で、自分の事じゃなくても、聞いていて嬉しかったし、そこまで見ているのか！と、驚いたこともあった。
理論的メモ	児童生徒はコーチが自分たちをよく見ていることを実感している。

④を除いて調査で得られた回答について、M-GTA を用いて相模、青柳の2名で同意を得て、分析を行っている。分析テーマはWOWWアプローチによる児童生徒の

意欲の上昇及び維持のプロセス、分析焦点者はジュニアドクター育成塾に参加し、WOWWアプローチを受けた児童生徒とした。M-GTA の手順としては自由記述の回答から分析ワークシートを用いて説明概念を生成、似た概念を収集していき、カテゴリーを生成、カテゴリー相互の関係から最終的な結果となる結果図とストーリーラインを作成した。

V. 結果

1. M-GTAの結果

M-GTA を用いて分析を行い、29概念、8カテゴリーを生成した。カテゴリー相互の関係から、簡潔に文章化し(ストーリーライン)、結果図を作成している。以下、概念を『 』、カテゴリーを【 】と表記する。

①各概念とカテゴリー

結果の中で概念一つの例示を行う。調査結果から、児童生徒はコーチが自分たちをよく見ていることを実感している。これからWOWWアプローチのコーチが自分たちをよく見ていることを共通点として、『よく観察している』という概念を生成している(表1)。

さらに『よく観察している』『一人一人見ている』『自分のことを見てくれている』という概念と合わせて、一つのカテゴリーを生成している。コーチが自分たちを観察してくれていると児童生徒が感じていることを表すものとして【コーチからの観察】というカテゴリーを生成している(表2)。

こうした概念の生成・修正を繰り返し、合わせてカテゴリーも生成・修正を行う。22名分のデータ分析を終えた時点で最終確認を行い、理論的飽和に達したと判断した。

②ストーリーライン(図)

以下にM-GTAの最終的な結果となるストーリーライン及び結果図を示す。

ジュニアドクター育成塾に参加し、WOWWアプローチを受けた児童生徒はコーチからの COMPLIMENT カードや全体のフィードバックを受け取り、『よく観察している』『一人一人見ている』『自分のことを見てくれている』など、【コーチからの観察】を実感している。その中で、『意識していないことをほめられた』ことで『自分を知った』り、『振り返るきっかけ』となり、【新たな視点の獲得】を果たした。それにより『協力を増やす』『良いところを真似する』『話を聞く態度に気をつける』『休んではいけない』『自分の

意見を言おう』『メモをしっかりと取る』といった【受講態度の改善】を意識した。

児童生徒はコーチから COMPLIMENT されることで『自信が持てた』『 COMPLIMENT カードをもらえるとやる気が出る』と感じた。そのような【内発的動機付けの向上】は次回に向かって『改善してもっとよくしよう』『ほめられたところを伸ばそう』『これからも続けよう』と『今後の活用』につながった。また、『ほめてくれてうれしかった』ことで、WOWWアプローチについて『こうしてほしいところはない』といったように【WOWWアプローチの肯定的評価】をしている。

一方で、全体のフィードバックを『欠席したため聞いていない』し『気をつけたことがフィードバックで取り上げられたことはなかった』、『気をつけたことが COMPLIMENT カードで取り上げられたことはない』ため、【聞いてないので影響を受けていない』と感じている児童生徒の中もいる。

また、全体のフィードバックや COMPLIMENT カードを【聞いたり見たが影響はない』ため、『フィードバックを聞いて気をつけたことはない』し、『 COMPLIMENT カードから次に気をつけた事はない』ので、『 COMPLIMENT カードの有無の違いはない』と感じている。

こうして児童生徒はWOWWアプローチを受けの中で、『頑張っているところを見てほしい』『アドバイスがほしい』と考えており、【今後の課題】となる『改善点』が存在する。

以上の結果をまとめたのが図の結果図である。

2. COMPLIMENT カードを読んでいる児童生徒の結果

調査内容④の COMPLIMENT カードを読んでいる児童生徒の結果については i いつも読んでいる を選んだ児童生徒は10名(45.45%)、ii 時々読んでいる を選んだ児童生徒は6名(27.27%)、iii 読んだことはない を選んだ児童生徒は6名(27.27%)であった。

VI. 考察

1. WOWWアプローチの効果

結果を元にWOWWアプローチの効果について考察を行う。まずは【コーチからの観察】にあるように児童生徒はコーチの観察を全体のフィードバックや個人への COMPLIMENT カードを受け取ることで感じている。『自分のことを見てくれている』という概念に象徴さ

れているように児童生徒の講座内での行動を見てくれていることを肯定的に受け取っていると感じていることが分かる。コーチの講座内で児童生徒を観察していることが児童生徒に影響を及ぼす下地となっていると考える。

続いて【新たな視点の取得】において『意識していないことをほめられた』『自分を知った』『振り返るきっかけ』に見られるように他者視点からの指摘を受けて、重要な振り返りのきっかけとなっていることが

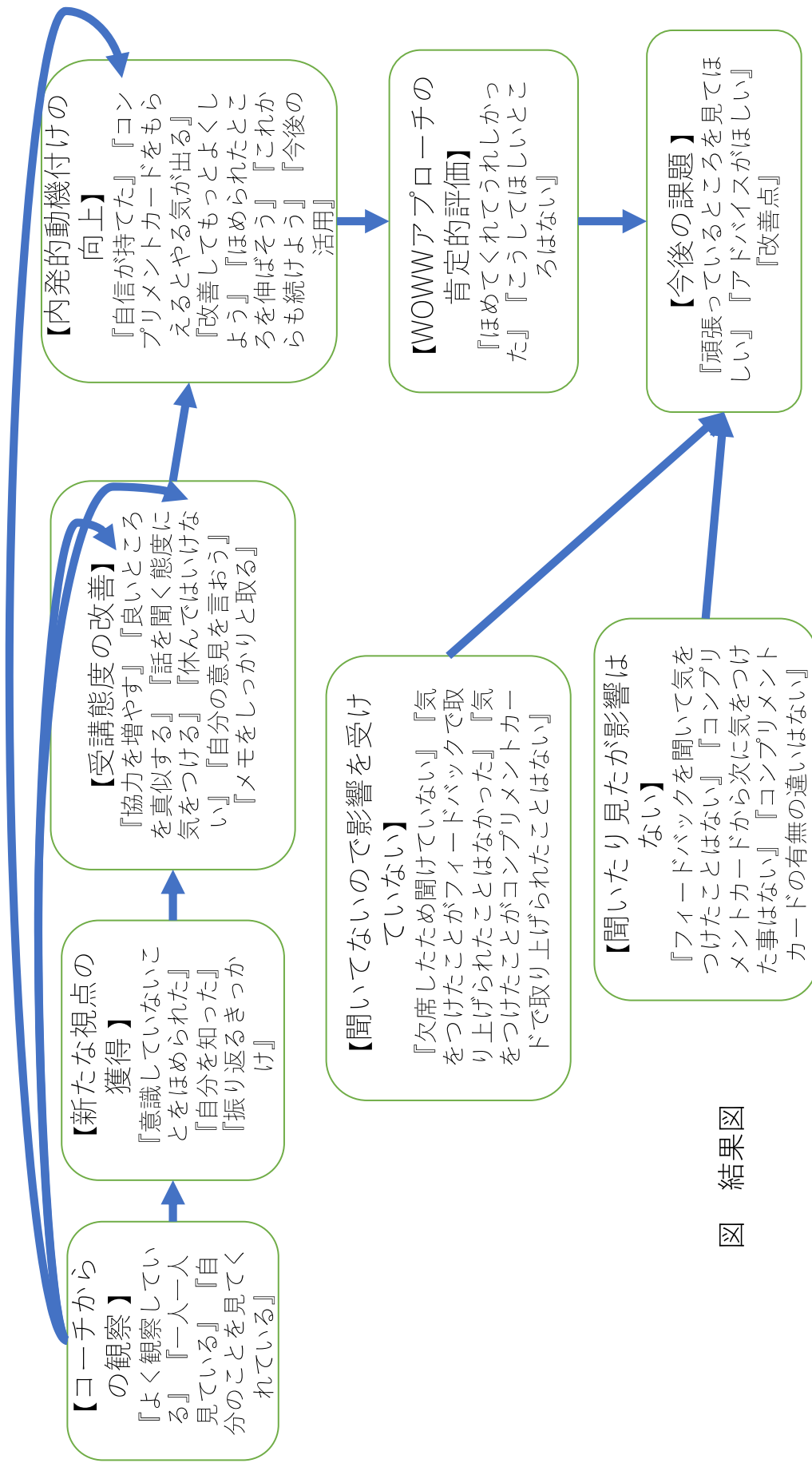


図 結果図

考えられる。

このようなコーチからの視点をもとに【受講態度の改善】に見られる改善が行われている。『協力を増やす』はジュニアドクター育成塾が育成したい人材像である「協働する力」に、『自分の意見を言おう』は同じく「表現する力」に関連すると考えられ、育成したい人材像全てではないが、影響があると考えられる。また『良いところを真似する』では全体のフィードバックで取り上げられる自分ではない他者をコンプリメントした箇所について取り入れていこうとする態度があり、これは大学生を対象とした先行研究(相模, 2015)⁽¹⁰⁾でも見られている結果だが、小中学生でも同様に確認されたこととなる。また『休んではいけない』についてはWOWWアプローチの先行研究(Kelly, Liscio, Bluestone-Miller, Shits, 2012)⁽⁷⁾でも欠席減少が確認されており、同様の結果となったと考えられる。

【内発的動機付けの向上】では『自信が持てた』『コンプリメントカードをもらえるとやる気が出る』を見ると、WOWWアプローチにおいて児童生徒のリソースを指摘したことにより、それが自信ややる気に繋がっていることが確認され、WOWWアプローチにおけるコンプリメントの効果が考えられる。『ほめられたところを伸ばそう』『これからも続けよう』に至ってはSFBTの中心哲学である「もしうまくいっているなら、それを直そうとするな」(白木, 1994)⁽¹¹⁾がそのまま行われており、WOWWアプローチの効果が認められると考えられる。

こうした過程を経て【WOWWアプローチの肯定的評価】に繋がっており、『ほめてくれてうれしかった』に見られる児童生徒が全体のフィードバックや個人へのコンプリメントカードを素直に受け取って、それを次の講座に活かしていることが考えられる。

このようにコーチが児童生徒のリソースを指摘し、それを元に児童生徒がジュニアドクター育成塾の講座に臨み、更に受講態度を改善し、内発的動機づけを高めていることがWOWWアプローチの効果として考えられる。

2. WOWWアプローチの課題

続いてWOWWアプローチの課題について結果から考える。【聞いてないので影響を受けていない】では初回の全体のフィードバックを『欠席したため聞いていない』があり、単純な欠席で聞いていないことや『気を

つけたことがフィードバックで取り上げられたことはなかった』『気をつけたことがコンプリメントカードで取り上げられたことはない』といったコーチの観察不足と考えられる概念も見られる。『頑張っているところを見てほしい』も含めて、今後の課題と考えられる。実際に結果からコンプリメントカードを読んだことはないと回答した者も27.25%おり、これについてはジュニアドクター育成塾自体において、回答を求めるアンケートが乱立しており、整理する必要があると考える。

しかし、【聞いたり見たが影響はない】もあり、『フィードバックを聞いて気をつけたことはない』『コンプリメントカードから次に気をつけた事はない』『コンプリメントカードの有無の違いはない』から構成されていることから、本研究でのWOWWアプローチの施行回数が全体の講座から考えると少ないことの弊害と考えられる。『改善点』の具体的意見に「コンプリメントカードは、講座が終わった後に毎回送ってもらいたいと感じました」とあるように前述のWOWWアプローチの効果をこうした受講生に広げるためにはWOWWアプローチの施行回数を増やす必要性が考えられる。

また【今後の課題】には概念『アドバイスがほしい』もあり、青柳、相模(2014)⁽¹⁾が不登校生徒にWOWWアプローチを行った際に毎回振り返りを行っていたように、よりきめ細やかな実践が必要になってくると考えられる。

このようにジュニアドクター育成塾におけるWOWWアプローチの実践について更に拡充した実践が求められると考えられる。

3. まとめ

ジュニアドクター育成塾におけるWOWWアプローチの導入による受講児童生徒の影響について効果と課題の面から考察を行ってきた。今後もより拡充した実践が求められると考えられる。

引用文献

- (1) 青柳潤子, 相模健人 (2014) 適応指導教室におけるWOWWアプローチの実践 日本ブリーフサイコセラピー学会第24回熊本大会発表論文集, 48.
- (2) 浅原雅恵 (2016) 学級経営に生かす解決志向アプローチ ブリーフサイコセラピー研究, 25(1-2), 12-18.

- (3) Berg, I. K. & Shilts, L. (2004) Classroom solutions, WOWW approach. Milwaukee, WI: BFTC Press. ソリューション・ワーカーズ訳 (2005) 教室での解決: うまくいっていることを見つけよう! . BFTC Press.
- (4) De Jong, P. & Berg, I. K. (2016) Interviewing for solutions, 4th Edition. Wales, Brooks /Cole, Cengage Learning. 桐田弘江・玉真慎子・住吉祐子訳(2008) 解決のための面接技法: ソリューション・フォーカスト・アプローチの手引き[第4版]. 金剛出版.
- (5) 浜田百合, 庄司裕子 (2013) コーチングの心理的効果に関する研究 日本感性工学会論誌, 12(2), 311-317.
- (6) 科学技術振興機構 (2015) ジュニアドクター育成塾ホームページ <https://www.jst.go.jp/cpse/fsp/> (2023年6月23日確認)
- (7) Kelly, M. S., Liscio, M., Bluestone-Miller, R., & Shilts, L. (2012) Making Classrooms More Solution-Focused for Teachers and Students: The WOWW Teacher Coaching Intervention. Solution-Focused Brief Therapy, A Handbook of Evidence-Based Practice. New York, Oxford University Press. 長谷川啓三, 生田倫子, 日本ブリーフセラピー協会編訳 (2013) 解決志向ブリーフセラピーハンドブック エビデンスに基づく研究と実路. 金剛出版, 315-331.
- (8) 木下康仁 (2003) グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 - 質的研究への誘い 弘文堂.
- (9) 向平和, 中本剛, 小助川元太, 佐野栄, 平野幹, 阿野嘉孝, 中原真也, 山本智規, 吉富博之, 熊谷隆至, 大西義浩, 岡本威明, 中村依子, 加納正道, 立川久美子, 田鍋克仁 (2021) 小中学生対象のノンフォーマル科学教育プログラムの開発と実践 - 愛媛大学ジュニアドクター育成塾の令和2年度実施内容を中心に - 日本科学教育学会研究会研究報告, 35(6), 31-34.
- (10) 相模健人 (2015) WOWW アプローチを受けた大学生の授業態度の改善過程 ブリーフサイコセラピー研究, 24(1), 17-25.
- (11) 白木孝二 (1994) BFTC・ミルウォーキー・アプローチ 宮田敬一編 ブリーフセラピー入門 金剛出版, 102-107.
- (12) Wallace, Laura B. (2017) Working on What Works (WOWW): Classroom-Level Impact on Teacher and Student Outcomes. Theses & Dissertations. 13.